

## 14. 薬学研究科

(1) 薬学研究科の教育目的と特徴	.....	14-2
(2) 「教育の水準」の分析	.....	14-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	.....	14-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	.....	14-8
【参考】データ分析集 指標一覧	.....	14-10

## (1) 薬学研究科の教育目的と特徴

1. 薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学である。京都大学薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献することを目標としている。
2. 京都大学薬学研究科の出身者は主に大学、企業、国公立研究所、官庁、医療機関などに就職し、その専門ならびに関連領域において研究者、教育者、技術者、薬剤師などとして活躍している。社会のグローバル化に伴い、リーダーとして活躍するには博士の学位取得が必須となっている。2020年度から、博士後期課程・博士課程在学者に藤多仁生奨学金という京都大学薬学研究科独自の奨学金を支給することになっている。
3. 薬科学専攻（修士課程及び博士後期課程）は、薬学の基礎となる自然科学の諸学問（有機化学、物理化学、生物化学など）と薬学固有の学問（薬理学、薬剤学、衛生薬学など）を分野横断的に研究し、創薬研究者あるいは教育者として求められるレベルの高い総合的な学問的素養と創造性を持った人材を育成している。
4. 医薬創成情報科学専攻（修士課程及び博士後期課程）は、創薬科学と生命情報科学の融合を基盤とし、そのもとで化学遺伝学、生命システム工学、創薬情報科学などの先端的薬学について統合的に研究し、ポストゲノム時代に対応する独創的な次世代の医薬品創成を担う力量ある人材を育成している。
5. 薬学専攻（博士課程）は、薬学関連の基礎科学を基盤として、医療薬学および関連分野の基礎から応用に関する研究を実践し、臨床薬学に対する知的好奇心や科学的問題解決能力の涵養を通じて、高度な先端医療の担い手や医療薬学に携わる教育研究者として求められるレベルの高い知識や技能を身につけた、多様な場で活躍する人材を育成している。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5214-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5214-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 5214-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 5214-i3-3～5）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 5214-i3-6～7）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○2012年度「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」に参画している。このプログラムは、「充実した医学研究環境に触れつつ工学や薬学を学ぶ」という発想で、工学や薬学の基礎・応用研究に加えて医学の基礎から臨床、介護までを学び、医学、工学、薬学の垣根を越えた新しい研究領域を開拓していくことができる

## 京都大学薬学研究科 教育活動の状況

ーダー育成を目的としている。また、医学研究科等と連携して、令和元（2019）年度卓越大学院プログラム「メディカルイノベーション大学院プログラム」に申請し、採択された。[3.2]

### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 5214-i4-1~2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 5214-i4-3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 5214-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 5214-i4-5)
- ・ 指標番号5、9~10（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○研究指導は、独創性及び難易度の高い研究課題を設定し、教員と学生の自由な発想と自主的な取り組みを尊重した双方向の対話を積極的に行うことで、個人の研究素養の向上を目指している。大学院学生については、個々のテーマを与え、自主的に研究を行うと共に、それぞれの研究の進捗状況を適宜指導教員がチェックし、研究レベルの充実、強化を図っている。また、セミナーの時間に研究室全員の前で発表させ、研究戦略・戦術の立て方を指導している。これに関連して、学修成果の可視化として、京都大学作成のE-ポートフォリオを利用した研究計画書及び研究報告書の作成を2019年度から導入した。これにより、研究の到達目標や目標の達成度が学生・教員ともに確認できる。[4.7]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5214-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5214-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料  
(別添資料 5214-i5-3)

- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料  
(別添資料 5214-i5-4)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

○大学院生については、研究室に配属されており、指導教員が研究指導を行うほか、学修や学生生活について、学生の相談に応じている。研究室での研究指導等で問題が生じた場合は、教務委員長や研究科長が学生の相談に応じ、研究科全体で対応している。その他、やむを得ない事情が生じた場合を想定して、指導教員変更の制度がある。 [5.1]

**<必須記載項目6 成績評価>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 成績評価基準 (別添資料 5214-i6-1) ※2019年度改定版
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 5214-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 5214-i6-3)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

○成績評価については、学生の自律的な学修の促進及び学生に対する学修指導等に活用することを目的として、2016年度以降に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される大学院生(修士課程、博士後期課程、博士課程)を対象に GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。 [6.1]

**<必須記載項目7 卒業(修了)判定>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 (別添資料 5214-i7-1~2)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料  
(別添資料 5214-i7-3~5)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準 (別添資料 5214-i7-6~9)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 (別添資料 5214-i7-10~12)

## 京都大学薬学研究科 教育活動の状況

- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 5214-i7-13）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士課程、博士後期課程、博士課程ともに、研究科会議において論文調査委員を選定し、論文発表会の日程を決定している。発表会には大学院担当教員（教授、准教授、講師）のほか助教、助手その他の職員、大学院学生、学部学生、及び研究科長が特に認めたものが出席できるものとし、透明性を確保している。その後、論文調査委員の調査期間を経て、学位審査は研究科会議で行われている。 [7.2]

## <必須記載項目 8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5214-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5214-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 薬学研究科の博士進学者を増やすための試みとして、薬学部では 2018 年度学部入学者から、新カリキュラムを導入している。1 回生担当科目「薬学研究 SGD 演習」の中で、学生の研究モチベーションを向上させることを目的として、研究室見学を行っている。その結果、2018 年度薬学部 1 回生に博士進学希望についてアンケートをとったところ、「進学しない」という回答について、入学時の 26% から、7 月時点で 15% となり、効果が見られている。 [8.1]

## <選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

### 【基本的な記載事項】

（特になし）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育の質の保証・向上を目指して、2019 年度に学位授与 WG が設立され、適正な学位の授与に向けて議論された。その議論を踏まえ、研究科長と教務委員長を中

## 京都大学薬学研究科 教育活動の状況

心として、博士の学位にかかる「博士修了学位論文手続冊子」を大幅に改正した。主な改正点として、要約公表を選択する場合であっても、全文公表する時期を学位取得から3年以内で指定することにしたことや、学位論文調査期間を3週間設けて、より精査できるようにしたことが挙げられる。 [C.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5214-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5214-iii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○2017年度の修士課程、博士後期課程、博士課程を含めた修了者のうち標準修業年限内での修了率は92.0%、標準修業年限×1.5年以内での修了率は98.7%と大変高い水準となっている。また、2017年度の修士課程、博士後期課程、博士課程を含めた学生数の留年率は2.7%、退学率は3.2%、休学率は1.8%とこれも大変良好な水準となっている。 [1.1]

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○京都大学が、本学卒業・修了生が就職した民間企業に2017年に行ったアンケートによると、京都大学の卒業生に期待する資質・能力として、1位が課題解決力、2位が専門知識の活用能力、3位がコミュニケーション能力となっている。薬学研究科の2017年度修了者を対象としたアンケートでは、「未解決の課題を論理的に解決する能力（が向上したか）」の設問において、肯定的な回答の割合は修士課程82%、博士後期課程100%、博士課程100%となっている。「専門分野に関連する先端・体系的な知識（が向上したか）」の設問において、肯定的な回答の割合は修士課程96%、博士後期課程100%、博士課程100%となっている。「自分の考えを表現し、相手の意見を理解するコミュニケーション力（が向上したか）」の設問において、肯定的な回答の割合は修士課程84%、博士後期課程100%、博士課程100%となっている。いずれも非常に高い水準を示している [2.2]



**<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 5214-iiA-1)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

○薬学研究科の2018年度修了者を対象としたアンケートでは、「薬学研究科での学修は、将来役に立つと思われましたか？」の設問において、肯定的な回答の割合は修士課程 88%、博士後期課程 100%、博士課程 100%の非常に高い水準を示している。「薬学研究科での学修に満足していますか？」の設問でも、肯定的な回答の割合は修士課程 85%、博士後期課程 100%、博士課程 100%の非常に高い水準を示している。 [A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ ■部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。